

月間資金繰り予想・実績表（無料特典）について

1.利用可能制限 会員限定

無料会員特典は、会員限定コンテンツになります。「月間資金繰り予想・実績推移表」は、解決コンサルタント 藤田貴志の「社長のための資金調達メソッド」にメールアドレスを登録された会員限定コンテンツとして提供するものです。

2.使用者

「月間資金繰り予想・実績推移表」はExcel等の表計算ソフト使用者なら誰でも使用可能です。経理専任担当者でなくて、社長は勿論、総務や庶務担当者等の広い職種の方も使用可能です。

3.利用により得られるもの

キャッシュフロー計算書は、決算での事業期間結果、事業計画等での目標による計画期間活動に基づいた予測を目的に作成されます。

もしも今、銀行預金通帳を開き現在の預金残高を見て、通帳に印字された入出金記録から月末までの記憶した支払額から預金残高を漠然と予想し、胸を撫で下ろしても、先々のことに思いを巡らせる。社長は人一倍強気であっても、リスクを敏感に感じと取ります。ですからどこか不安にかられるような漠然としたことに陥ることがよくあります。早めに打ち手を出せる心の準備ができると会社経営における心理的負担を軽減できるでしょう。

資金繰り表は日々の企業活動実績と予定金額を更新することにより月末までの資金収支から実績と予測により月内までの日々の預金残高過不足、そして、翌月以降に事業に投入する資金を統制目的で使用でき、会社経営に予定を立て易いツールとして大変有効です。

従来からの資金繰り表は、①営業収支、②投資収支、③財務収支の三段階で構成され、資金繰り全体像を把握、資金過不足を招かないよう予測や計画を立てる目的で作成されてきました。

「月間資金繰り予想・実績推移表」は、資金収支の中でも最も重要な営業収支を簡単に把握する目的から作成しました。

営業収支三段階による簡単収支把握

① 粗利益収支

会計では、売上総利益こと通称、粗利は売上高から売上原価（期首商品棚卸高＋当期仕入高－期末商品棚卸高）を差し引いて算出されます。

資金繰り表は利益計算を目的にするのではなく、資金の利用可能額を予測することが主目的により在庫は考慮しません。銀行預金残高になった、これからなる売上代金入金から販売目的に購入した原材料、商品・サービス等の仕入代金を差し引いたキャッシュを粗利益収支、売上代金の回収により事業へ投入して再生産を生む原始となります。

② 固定収支

粗利益収支から固定費を差し引いたキャッシュ、人や事務所などの設備から生ずる付加価値の対価として生じる固定した支出を考慮した利用可能額。固定費には人件費、事務所・倉庫等家賃や水道光熱費、自動車やコピーなどの複写機をリース・レンタルなど契約等によるものなど毎月固定して支払われるものが含まれます。

③ 変動費

広告宣伝、キャンペーン、イベント、旅費交通費、ガソリン代、ETC利用料、事務用品や日用品購入などで使用頻度や利用の範囲により金額が変動する経費です。

「月間資金繰り予想・実績推移表」は①粗利益収支、②固定収支、③変動費の三段階を経て営業収支が算出され、各段階で資金に反映される課題または問題を明確にして、投資や財務に回せる資金、または、資産処分による投資資金の回収、銀行等金融機関からの借り入れによる資金調達を事前に予測することが可能となり、その準備を立てやすくします。

4.事前準備資料

「月間資金繰り予想・実績推移表」は、銀行営業日（土日、祝祭日除く）の日々の入金及び出金予測や実績から金額を該当日に入力し、当日の預金残高が確定しだい実績に入れ替えることより預金残高実績から精度の高い日々の予想を月末に至るまでをシュミレーションできます。

用意する書類は銀行預金通帳、売上代金請求書、仕入代金等の購買請求書、クレジットカードや公共料金などの口座振替通知書などの実績資料、現金での売上や支払予定です。

5.作成にあたり

①フォーマット限定提供について

無料特典は、フォーマットと使用方法に限定しております。当フォーマットからエクセル等の表計算ソフトを利用して会社で使い易いフォーマットにカスタマイズして下さい。

②注意事項

売上高から各収支入金予定、仕入高からの各収支支払予定の入力判断は適宜、利用者が判断の上、入力し、実績金額に置き換えて下さい。予定の過大又は過小、実績の置き換えは利用者の判断に基づいて行うものであり、当社では責任を負えませんことを予め了承願います。

以 上